

令和7年度

学校評価報告書

智辯学園和歌山中学高等学校

学校法人智辯学園

1. 学校評価総括

学校運営方針		「誠実明朗で知性溢れ将来各分野で活躍するリーダーの養成」を旨とする。大切な2本の柱として「知力を高める教育」と「豊かな心の教育」を実践する。	
年度重点目標	学力向上	現 状 と 課 題	本校の開校以来の重点目標である「学力向上・挨拶励行・一日一善」を原点に立ち返るとの観点から「年度重点目標」に設定した。「学力向上」では、特に個々の習熟度に則した課題設定やアプローチに改善余地があり、生徒達にとってより手応えのある教科指導の追究は継続し、一層力を入れるべき責務である。教材研究に研鑽を積む教員の時間や労力は本校にとって財産であり、全ての教育活動の原点となっている。「挨拶励行」では、生徒会の挨拶運動など生徒達自らの働きかけもあり、良い方向に進んでいる。今後も全教職員が高い意識を持って自ら挨拶励行に努めることを徹底したい。一朝一夕で身につく資質ではないため、登下校時、校内外、授業場面、課外活動、学校行事等あらゆる場面においての声かけを続けていきたい。「一日一善」では、本校の宗教を通じた心の教育が生徒達、全教職員に浸透している状況を把握できた。月1回の感謝祭や毎朝の御真言など継続性を持って実施している教育活動を形骸化させる事なく、目的や趣旨を大切に引き続き実施していきたい。
	挨拶励行		
	一日一善		
現 状 と 課 題	教科指導	授業を基本とした学習基盤の確立では達成度A・Bで98.1%と高い達成度となった。生徒達にとって学校生活で多くの時間を費やす授業が有意義なものとなるよう研鑽を重ねていきたい。また生徒個々の学習状況を学年・担任・教科担当が連携して把握し指導に活かしている。小テストや単元テストなど短期的スパンでの定着を図るための取り組みについても継続的に実施できている。	
	生徒指導	生徒に対して、担任との二者面談、また保護者も同席いただく三者面談、校長・教頭との面談など年度内に複数回の面談を実施し、生徒の状況把握に努めている。さらにスクールカウンセラーとの面談機会を設け、専門的な視点からも生徒のサポートにあたっている。一方で、電車内や駅周辺におけるマナー、あるいは自転車通学生のマナーについては指導が徹底されておらず、大いに反省すべき事項である。	
	進路指導	大学入試問題の研究など、各教科や個々で精力的に実施できている。ただし校内での研究、自己研鑽に留まり、対外的な研修会の参加や伴うフィードバックの機会をもっと増やしていくべきである。今年度より実施の京都大学見学や継続的に実施している東大見学、職業体験、卒業生からの講演等のキャリア教育を各学年で実施しているが学校全体として組織的な取り組みをさらに進めていきたい。	
	人権教育	本校内では近年、その取り組みが飛躍的に改善した項目である。人権教育推進部を発足し、本校の宗教を通じた心の教育と関連付けながら様々な取り組みと報告会、勉強会を定期的実施してきた成果が着実に出てきたように感じる。昨今のSNS等での問題についても決してゼロにならない難しい状況ではあるが、基本は人権教育の観点から保護者・生徒・教職員一丸となって取り組むとともに、専門家による研修会、講演会の開催も継続していきたい。	
	広報活動	地域別学校説明会や学校見学会の実施など精力的に開催していることで本校への理解推進を図ることができている。外部からの指摘や評価に対して、全教職員への情報提供・共有を行ってはいるが、その改善については足りておらず、具体的な対策が早急に必要である。欠席連絡や情報提供のIT化により、随時確実な伝達をおこなうことが出来ている。保護者総会や学年懇談会で保護者と懇親の場を持ち、情報交換を図っている。	
	学校運営	校内業務のDX化についてはまだまだ改善の余地があり、教職員が効率的にその力を発揮できる体制作りに努めていきたい。ホームページやSNSでの情報公開については概ね達成度は高く継続していきたい。学校全体の行事予定は年度初めに提示され、定期的な会議にて再確認、変更が図られている。特に重要な行事については全教職員で打合せを実施し、円滑な運営に努めることが出来ている。	

学校評価アンケート(自己評価:教職員)

達成度	A	十分に達成した(80%以上)
	B	概ね達成した(60%以上)
	C	あまり十分でない(40%以上)
	D	不十分である(40%未満)

学校運営方針	「誠実明朗で知性溢れ将来各分野で活躍するリーダーの養成」を旨とする。 大切な2本の柱として「知力を高める教育」と「豊かな心の教育」を実践する。	
年度重点目標	年度具体的目標	達成度
学力向上	個々の生徒の状況に即した課題設定やアプローチを心がける。	B
	教科指導力向上のため、教材研究に研鑽を積み、学ぶ楽しさ、知的好奇心を育む授業をおこなう。	B
挨拶励行	豊かな心を育むための第一歩として、他者への礼節を挨拶で表す。	B
	相互礼拝の精神により、生徒間、教職員間、生徒－教員間での気持ちが良く、品のある挨拶を心がける	B
一日一善	日常生活の中で、常に「感謝の心」と「利他の精神」を重んじる。	A
	「徳を積む」という考え方を大切に、日々の清掃、他者理解等、日常での気づきを一善として表す。	A

分野	評価項目	評価のポイント	達成度
教科指導	自立的学習態度の確立	自主学习(中学3時間／日、高校5時間／日)を目標とし、予習・授業・復習のローテーションを確立させる。	B
		学びの本質や学ぶ目的を具現化し、内発的動機付けを行い、生徒自らが学びに向かう姿勢や意欲を高める。	B
	確かな学力の養成	授業を基本とした学習基盤の確立を目指す。	B
		生徒の習熟度に応じた授業内容、展開をおこなう。	B
		生徒の習熟度に応じた補助教材の活用、補習、勉強合宿を実施する。	B
	組織的な学習指導の体制	教科担任、クラス担任、学年団が連絡を密にし、生徒個々の学習状況を総体的に把握する。	B
		教科担任、クラス担任、学年団が連絡を密にし、課題の提示や補習などを学年で計画的に実施する。	B
		教科会議を活発に行い、教材の扱い方や進度を十分に検討する。	B
		教科会議を活発に行い、個々の教員間の差異や年度による学力レベルの差がないようにする。	B
	授業力向上	規律ある授業運営を行い、各授業の目標を明確にし、内容を確実に生徒に定着させる。	B
		小テストや単元テストなどを積極的に取り入れ、生徒の理解度に合わせた授業展開を行う。	B

分野	評価項目	評価のポイント	達成度
生活指導	登下校時を中心としたマナー向上と安全教育	ホームルーム活動における啓蒙や、登下校時の立哨を通じて、通学時の電車・自転車・徒歩それぞれに応じた通行マナーの指導をし、その向上を図る。	B
		不審者情報などの把握に努め、生徒の通学における安全を確保する。	B
	組織的な生徒指導体制の確立	担任による三者面談を学期ごとに実施し、必要に応じて適宜、校長・教頭・スクールカウンセラーによる個別面談を実施する。	B
		不登校生徒については、担任が主となり、校長・教頭・学年・スクールカウンセラーと組織的に連携して、状況の改善を図る。	B
		ホームルーム活動や学年集会、各種行事等で、学年や学級としての団結力や所属意識を強くして、支え合える学級作りに取り組む。	B
	基本的生活習慣の確立	教師・生徒共にチャイムと同時の授業開始を守り、60分間を最大限活用する。	B
		授業姿勢をしっかりと保ち、集中して積極的に授業を受けるようにさせる。	B
		清掃活動に誠意を持って取り組む姿勢を養い「気づく力」「工夫する力」「感謝の心」を養成する。	B
		校内外を問わず、正しい服装を徹底させ、自主的にルールを守ろうとする姿勢を養う。	B
		家庭での学習時間と睡眠時間の確保を両立させ、朝食を必ず取るなど、規則正しい生活を心がける。	B
進路指導	東大／京大／国公立医学科を目指した指導体制の確立	低学年における基礎力の完成と演習量の確保、高い目標設定への早期意識付けを行い、生徒の能力を最大限に引き出す教科活動を工夫して、早期からの大学進学に向けた自立した学習姿勢の確立をめざす。	B
		大学入試問題の研究を絶えず行い、教師自身の教科力の向上に努める。	B
		各方面の研修会について、開催情報の周知と研修会への参加を促進する。	B
	生徒・職員への進路情報の提供	学年ごとの到達レベルと合格可能大学の関連性を正しくつかんで指導に生かすため、模試の成績について、検討と対策のための会議や資料の配付を充実させる。	B
		教員対象の進学研修会を実施するとともに、予備校等の進学指導会に積極的に参加し、最新の進学情報を入手する。	B
		生徒対象の進学指導会を開催して最新の大学入試情報を提供し、学習方法や目標設定と学力の目安についてなどを知らしめる。	B
		適切な時期での個別面談により、各生徒の希望する進路に応じて必要な情報を提供する。	B
	将来への希望を叶えるための意欲を高める指導	職業調べ活動や職業体験、卒業生からの講話等のキャリア教育を通して、将来への希望を育む。	B
		東大、京大等の大学見学を企画し、生徒の目標の具体化、親近化を図る。	B
		授業を通して、教科への興味付けを工夫し、能力開発につながる知的好奇心を醸成する。	B

分野	評価項目	評価のポイント	達成度
人権教育	同和・人権教育の推進	年間計画に基づく同和・人権教育を実施するとともに、公的機関による各種推進活動や私学協会主催研修会への参加を行う。	B
	生徒の人権意識の向上	人権作文コンクールや各種募金活動への参加、社会的モラル・マナーの学習などを通して「思いやり」の心を育み、正しい相互理解と協調性の向上を図る。	B
		学校行事への取り組みを通して、クラス・学年における仲間作りの推進を図り、友情を育むことで他を大切にする心を養成する。	B
	教師の人権意識の向上と人権教育の指導力向上	同和・人権教育の関連図書を充実させるとともに、同和・人権教育研修会等に参加することによって、ホームルーム活動における教材の活用法の技能向上を図る。	B
広報活動	地域に信頼される学校を目指した広報活動の充実	地域別の学校説明会や中学校・学習塾訪問の実施、学校紹介ビデオ・学校案内冊子の作製を積極的に行い、本校への理解をより深めてもらい、進学希望の掘り起こしを図る。	A
		学校に対する外部からの意見や指摘には真摯な対応をし、生徒・教員全体に注意を喚起するとともに、以後の教育体制の検討・改善に努める。	A
	保護者との連携を深める活動	保護者－学校間のIT連絡ツールを積極的に活用し、保護者への情報提供や欠席連絡の円滑化を図る。	A
		保護者総会を実施し、「育友会」経理状況や活動状況の相談や報告を行う。	B
		学年懇談会を実施し、情報提供・意見交換に努め、学校と保護者、あるいは保護者同士の連携を深める。	B
学校運営	DX化の推進	校内DX化により、業務や作業の効率化を図る。	B
		外部向けホームページやSNSでの情報発信により、学校行事・教育内容・進学実績・学校説明会など学校に関する情報を広く提供する。	B
	校舎・環境整備	生徒が利用する施設の安全確認、破損箇所に対して迅速に対応するため、施設管理責任者から事務長、校務員への早急な連絡および修繕をおこなう。	B
	行事等の適切な企画運営	年度初めに年間行事予定を提示し、さらに各月各週の予定については随時提示して、各行事の円滑な実施を図る。	B
		入学式・卒業式・甲子園応援・入学試験など、重要な式典や学校行事については、実施要項の作成配布および打ち合わせ会議を行い、全職員の統一意識のもとで安全かつ円滑な実施を図る。	A

3. 学校関係者評価（保護者学級委員による評価）

評価基準(4・・・よく当てはまる 3・・・やや当てはまる 2・・・あまり当てはまらない 1・・・まったく当てはまらない)		評価		割合
1. 教育目標が明確で、特色ある教育を実施している。	A	4	62.1	%
		3	34.8	%
		2	3.0	%
		1	0.0	%
2. 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。	A	4	47.0	%
		3	45.5	%
		2	7.6	%
		1	0.0	%
3. 進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	A	4	53.0	%
		3	39.4	%
		2	7.6	%
		1	0.0	%
4. 挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている。	A	4	59.1	%
		3	34.8	%
		2	6.1	%
		1	0.0	%
5. 必要ときに相談に応じてくれる体制ができている。	A	4	54.5	%
		3	36.4	%
		2	7.6	%
		1	1.5	%
6. 有意義な学校行事がある。	A	4	53.0	%
		3	40.9	%
		2	4.5	%
		1	1.5	%
7. 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている。	C	4	21.2	%
		3	30.3	%
		2	40.9	%
		1	7.6	%
8. いじめアンケートを実施するなど、学校として日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。	A	4	50.0	%
		3	37.9	%
		2	12.1	%
		1	0.0	%
9. IT連絡ツールの活用や電話連絡、面談、学年懇談会により家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている。	A	4	59.1	%
		3	37.9	%
		2	1.5	%
		1	1.5	%
10. 学校生活は充実している。	A	4	69.7	%
		3	25.8	%
		2	3.0	%
		1	1.5	%

学校関係者評価によると、教育目標が明確で、特色ある教育の実践に対して高評価を得ている。また学力向上や大学進学に向けての取り組みも一定の評価を得ている。挨拶などの基本的生活習慣の確立を保護者皆様との協力を得て実践できている。その他の項目においては一部低評価をいただくこととなった。本校に関わる全ての方から一定の評価をいただけるように学校運営に努めるべく改善を図っていく。特に校舎施設に関しては猛省したい。開校50周年を間近に控え、校舎リノベーション計画が進行中である。生徒達にとって過ごしやすく充実した教育が実践できる環境を整えていきたい。